

仏教通信 「報恩講について」 11月

報恩講とは、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人のご命日をご縁として行われる仏教行事です。この報恩講の日には、新暦に換算した親鸞聖人の命日である1月16日に行う事が多いのですが、旧暦のまま11月28日に行う宗派や地域もあります。私たち、国府台女子学院の報恩講は11月15日(水)に行います。この報恩講の由来は、親鸞聖人のひ孫にあたる本願寺第三代宗主の覚如上人が、親鸞聖人の三十三回忌(33回日のご命日)に『報恩講私記』という書物を書いたことに始まります。この書物では、「感謝の気持ちで合掌をする教え」を残してくれた親鸞聖人のご恩に報いるためにも、感謝のこころを持って生活をしましよと述べられています。それ以来、本願寺では、聖人のご命日に報恩講が行われるようになりました。

さて、親鸞聖人が説いた教えは「阿弥陀如来という仏さまは、いのちあるもの全てを、漏らすことなく救ってくださる」というものでした。それは、すぐに怠け、他人をねたみ、自分の利益や怒りのために争い続けてしまう人々に対し、人間の「自力(自分の能力や努力)」には限界があり、人や生き物を傷つけずに生きるのは難しい。そんな私達は「他力(阿弥陀如来による救い)」を信じ、おまかせするしかないという教えです。聖人の説いた「他力本願」という教えは、自分で努力することをあきらめて安易に他人に頼ろうとする「人まかせ」や「神だのみ」というものではありません。むしろ、「他力」を知ることにより、私以外のものから与えられる「いのち」「優しさ」「愛情」に感謝し、この今を、精一杯に「生かされて生きる」教えなのです。

ぜひ、報恩講では、親鸞聖人の教えや生涯に触れることで、自分を近くで支えてくれている家族はもちろん、自分以外の人たちや自然にも感謝の気持ちを持ってほしいと念じています。合掌

